

資料 1

- 1 佐世保市食育に関するアンケート調査結果
- 2 次期食育推進計画骨子（案）
- 3 第4次食育推進計画実績値・評価及び次期食育推進計画目標値（案）

佐世保市食育に関するアンケート調査結果

【基本目標1】 食育の認知度を向上させる

【現状】

前回調査結果より5.0%上昇し、全国と比較した認知度は高い割合だが、目標値は達成できていない。

【課題】

食育に関する情報の取得先は、全国と比較し、インターネット上のニュースサイトの他に、スーパー・小売店など食品の購入場所、家族とのやりとりの割合が高い反面、学校の割合が低い(①・②・③・④)。

今後、食品関連事業者等と連携した情報発信及び共食のほか、学校での継続した食育の推進が必要と考えられる。

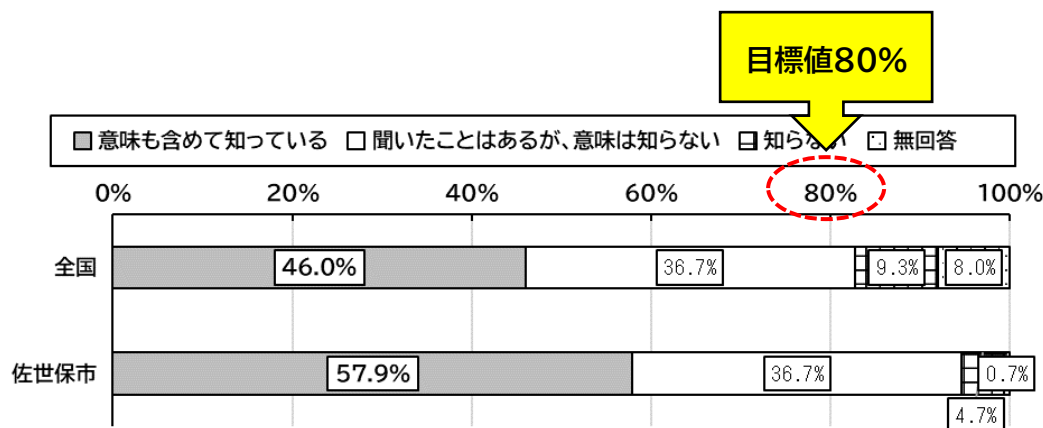


図 23 (成人)食育の認知度、全国との比較 (P26)

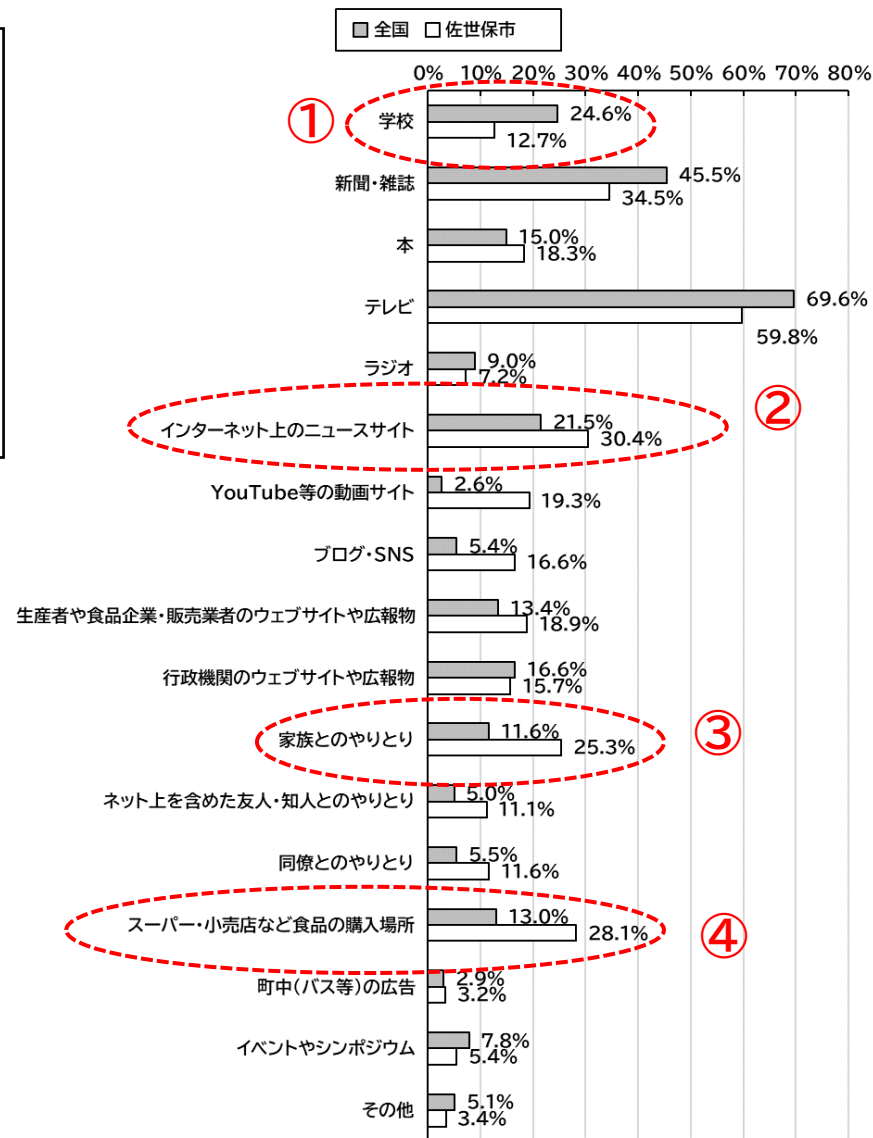


図 34 (成人)情報の取得先、全国との比較 (P39)

【基本目標2】 朝食の欠食について(欠食する市民の割合の減少)

【現状】

朝食の欠食率は小学2・5年生及び成人において減少傾向だが、就学前及び中学2年生では増加傾向で、すべての年齢で目標値は達成できていない。また、子どもにおいては学年が上がるごとに欠食率は高く(①)、小学5年生・中学2年生においては起床時刻が遅くなると欠食率が高い傾向にある(P51-53 図47-50参照)。

ライフスタイル及び働き方の多様化に伴い、家庭で望ましい食生活の実践が難しい場面が想定されるものの、規則正しい食生活における意識は全国に比べて高い(②)。

【課題】

「早寝・早起き・朝ごはん」や食事の準備に関する簡便化及び時短に配慮した望ましい食習慣の実践について、効率的かつ効果的な情報発信が必要と考えられる(③・④)。

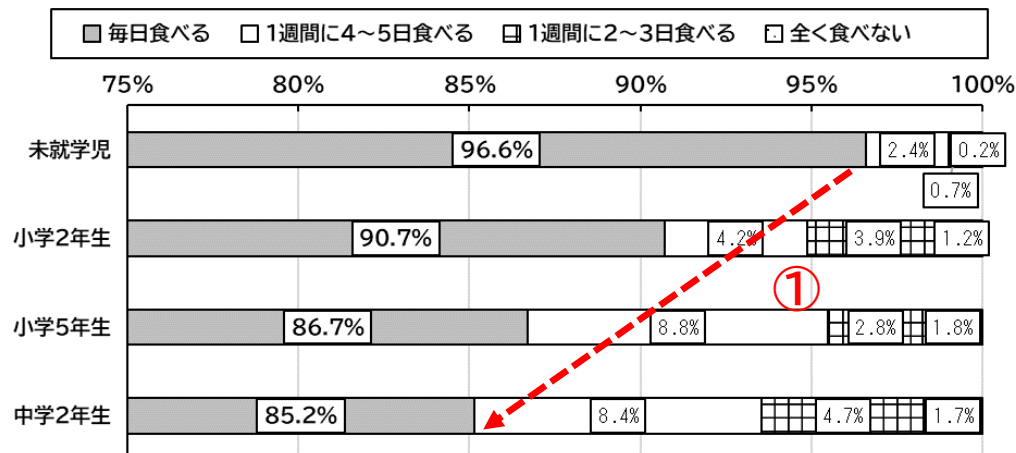


図 49 (小児)朝食の摂取状況、学年別 (P49)

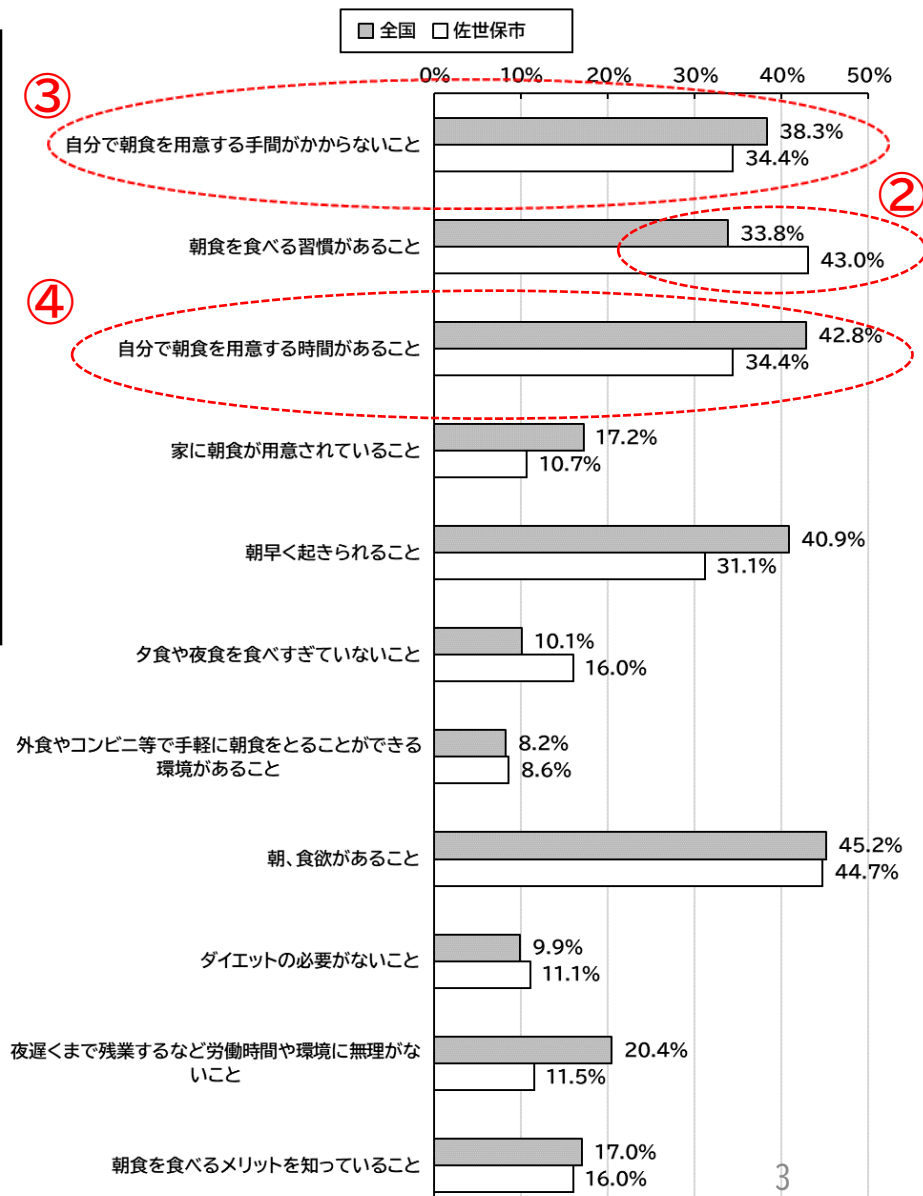


図 52 (成人)朝食を食べるために必要なこと、全国との比較 (P55)

【基本目標3】 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす

【現状】

栄養バランスに配慮した食生活の実践は増加傾向だが、どの年代でも副菜をそろえていない割合が高い(①)。また、主菜をそろえていない割合は70代においては約4人に1人と高い(②)。

【課題】

今後、ライフスタイル及び働き方の多様化に伴い、簡便化及び経済的志向に配慮した食育の推進が必要と考えられる(③)。

ライフコースアプローチとしては、若い世代へは生活習慣病予防及び次世代への望ましい食生活の伝承の観点から「手軽に時短で調理できる野菜料理」、高齢者へはフレイル及び骨折・認知症予防等の観点から「主菜をそろえた和食等のバランスの取れた食事」についての普及・啓発が必要と考えられる。

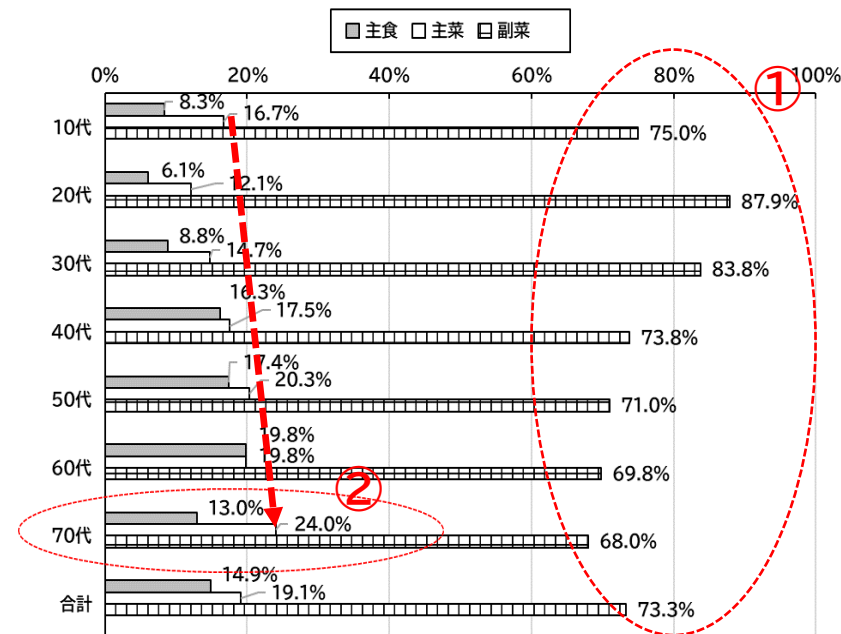


図 64 (成人) 主食・主菜・副菜のうち食べられていないもの 年代(P63)

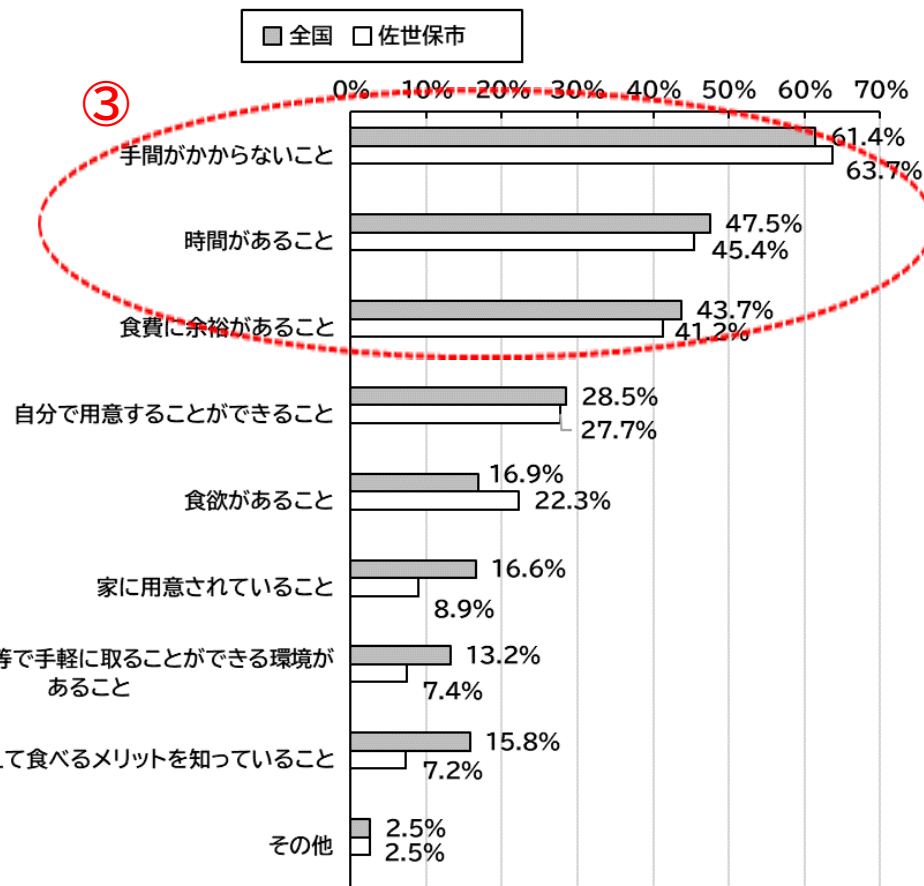


図 66 (成人) 栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと 全国との比較 (P65)

【基本目標4】生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす

【現状】

生活習慣病予防や改善に関する実践は、全国に比べて高い割合だが目標値は達成できていない(①)。

また、やせは肥満よりも実践している割合が高い(P87 図85参照)。

小学5年生及び中学2年生においては、学年が上がるごとに体型を気にするとともに、やせよりも肥満傾向で割合が高くなる傾向にある(P88-89 図86-88 参照)。

栄養成分表示を確認する市民の割合は増加し目標値を達成できた。

外食や中食については2人に1人が週に半分以上利用しており身近な存在となっている(P73 図72参照)。やせの男性及び肥満の男女において利用する割合が高い(②③)。

小学5年生及び中学2年生においては、中食の利用は肥満傾向において利用する割合が高い(P108 図116-117 参照)。

【課題】

今後、食品関連事業者等及び学校と連携した食育の推進が必要と考えられる。

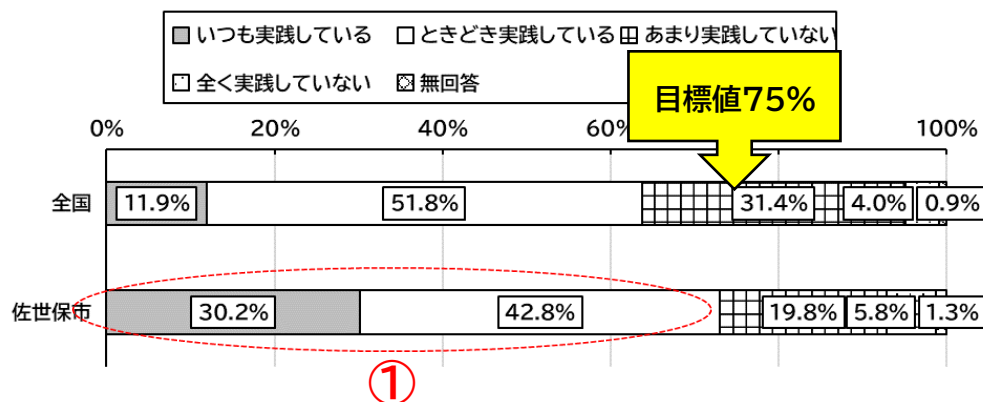


図 81 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践 全国との比較 年代(P83)

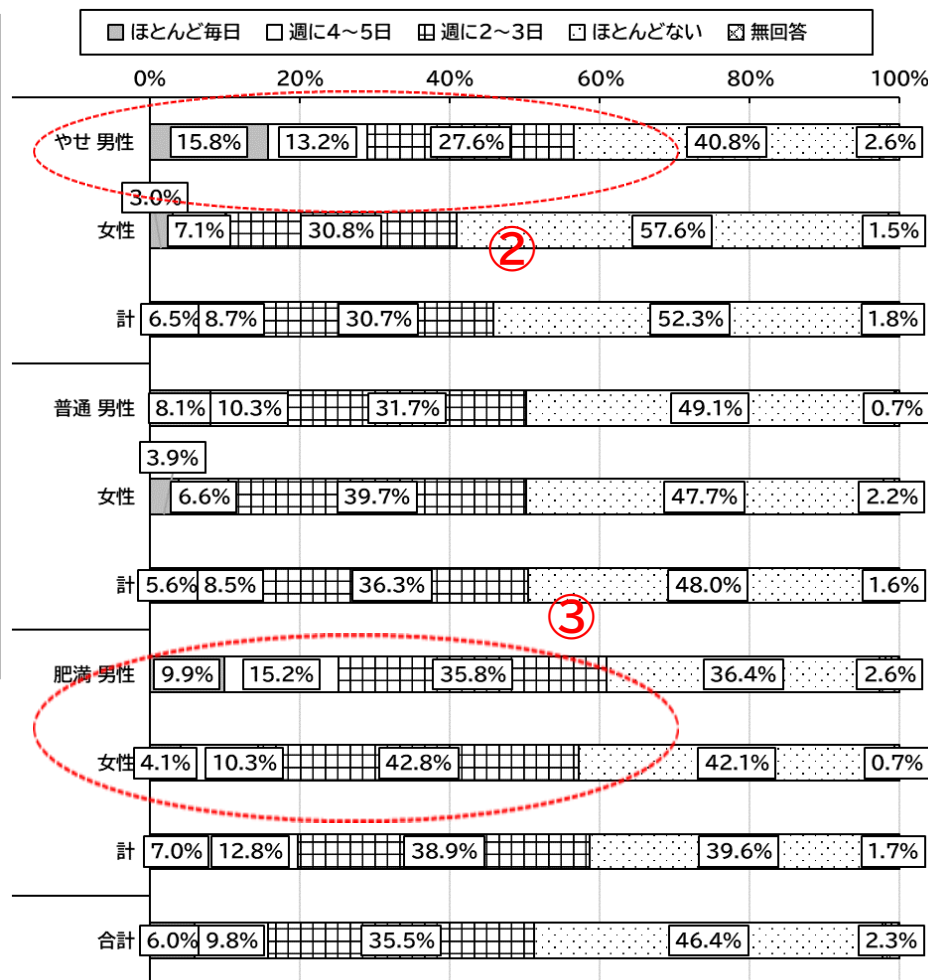


図 75 (成人) 外食・中食の頻度 体格 性別 (P76)

【基本目標5】 噛ミング30の推進について(ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合)

【現状】

ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合は、就学前以外は増加傾向で、小学5年生は目標値を達成できたが、学年が上がるごとに意識が低くなる傾向にある(①)。

成人においては、やせは肥満よりも意識している割合が高い(②③)。

【課題】

今後、歯科医師会及び学校並びに保育園等と連携し、継続した歯科保健の取り組みが必要と考えられる。

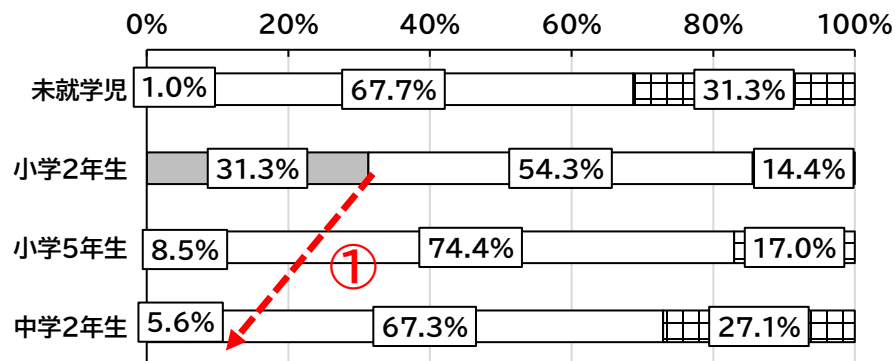


図 99 (小児) 噛むことへの意識 学年別(P98)

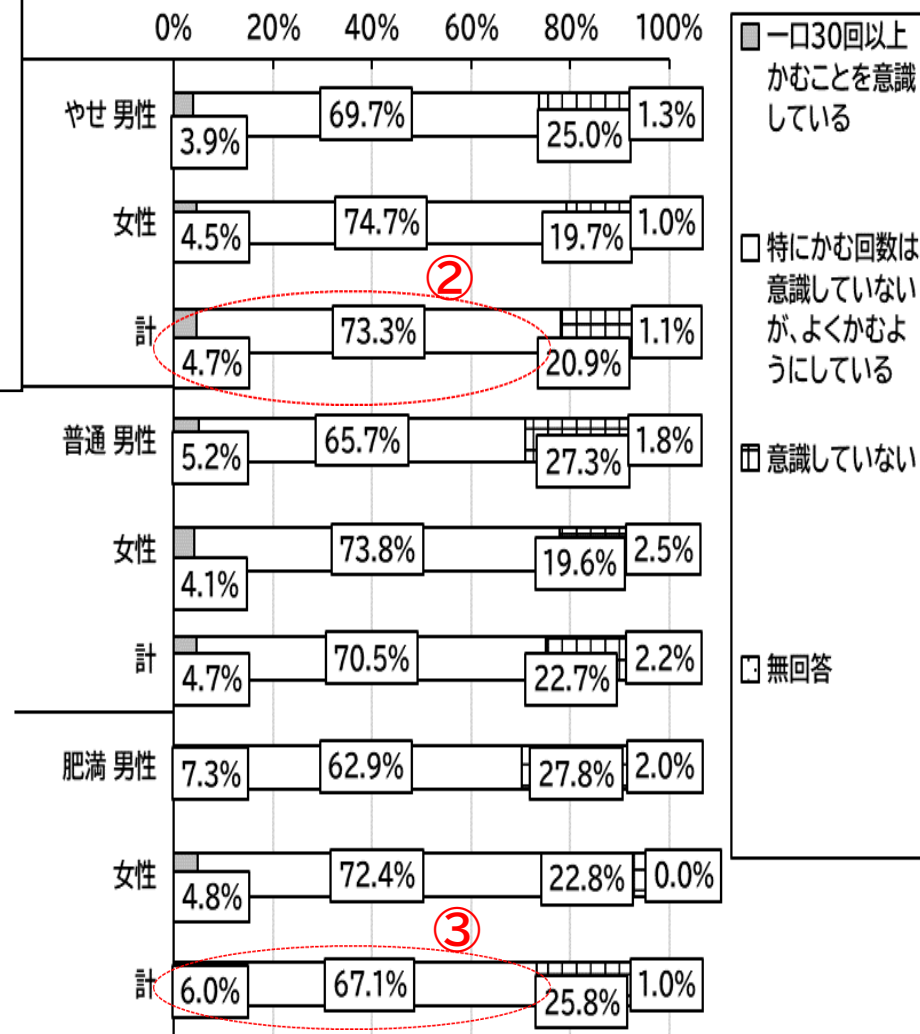


図 98 (成人) 噛むことの意識 体格 性別 (P97)

【基本目標6】 家族そろっての食事の機会を増やす

【現状】

小児における孤食の割合は、学年が上がるごとに高い(①)。また、中学2年生においては、肥満よりもやせが高い傾向にある(P106 図113参照)。

成人においては、全国に比べて共食の割合が高く、前回よりも増加傾向にあるものの、目標値を達成できていない。また、20代及び70代において孤食の割合(約5人に1人)が高い(②③)。

【課題】

国の調査において、孤食がない方が栄養バランスがよい傾向にあることから、今後、地域等と連携したライフコースアプローチによる食育の推進が必要と考えられる。

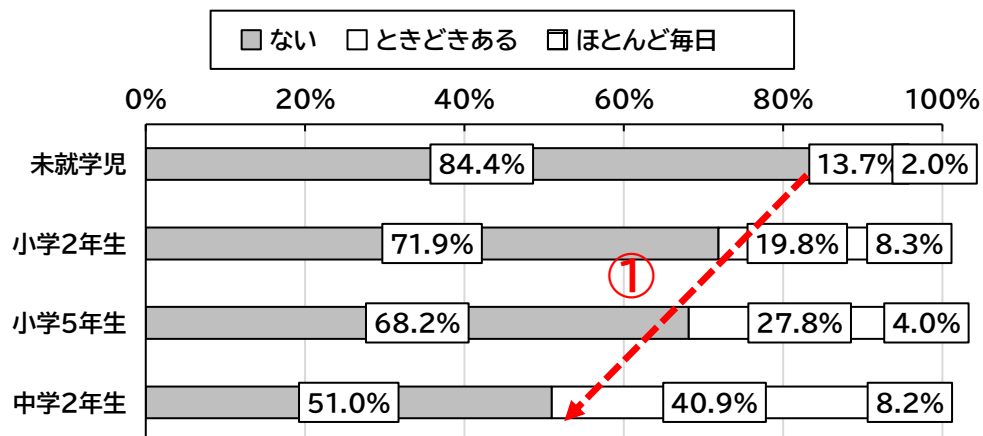


図 111 (小児) 孤食の頻度 学年別(P105)

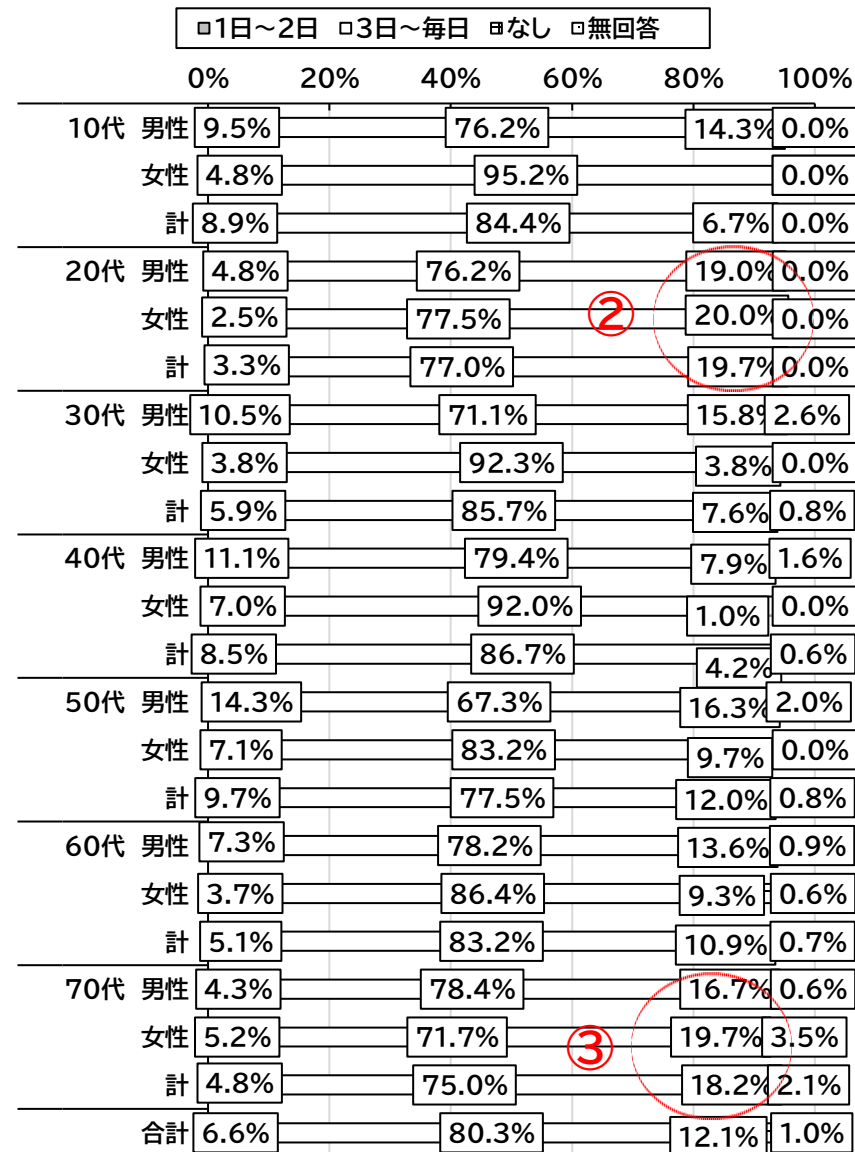


図 110 (成人) 共食の頻度 年代 性別 (P104)

【基本目標8】 食育の推進にかかわるボランティアの数を増やす

【現状】

ボランティア活動へやイベントへの参加は、全国に比べて高いが(①)、「活動の存在を知らなかった」「特に理由はない」の割合も高い(②③)。

【課題】

食育推進活動について、食育ボランティアをはじめ、メディアや食品関連事業者、さまざまな関係機関と連携した効果的な周知及び意識の向上が必要と考えられる(食品及び情報へのアクセス*)。

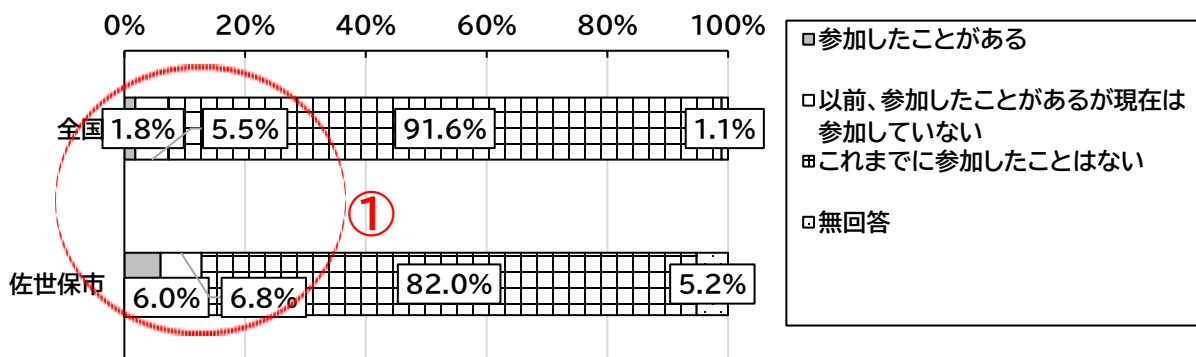


図 118 (成人) ボランティアの参加 全国との比較 (P109)

食品へのアクセス*	<ul style="list-style-type: none"> ●食物の生産から消費に至るまでのシステム全体のこと 健康に配慮したお弁当の販売 従業員食堂における副菜の品目の増加
情報へのアクセス*	<ul style="list-style-type: none"> ●栄養や食生活・健康に関する情報やその流れのこと スーパーなどでの健康メニューや野菜を使用したレシピの配布 飲食店でのメニューの栄養成分表示

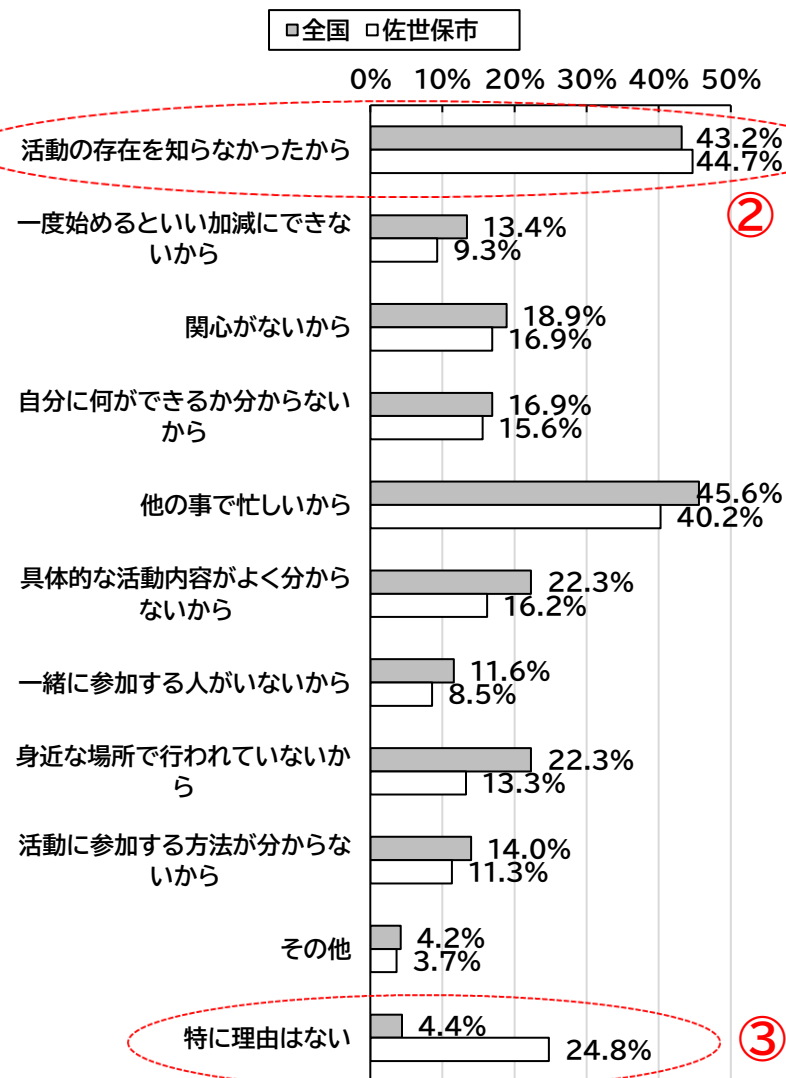


図 120 (成人) 食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由 全国との比較 (P111)

【基本目標9】 地産地消の推進について(地場産物を認知している市民を増やす)

【現状】

地場産物の選択については、小学5年生以外は目標値を達成できた。
成人では、全国に比べて意識している割合は高い(①)が、若い世代の意識は低い(②)。

佐世保市や長崎県産の特産物の認知では、西海みかん・世知原茶・長崎和牛・九十九島かきなどが上位である(P119 図128参照)。

【課題】

若い世代を含めた地産地消に関する認識を高めるために、学校並びに保育園等でのこれまでの取組の継続とともに、地域における生産者と消費者との交流を促進するための効果的な情報発信が必要と考えられる。

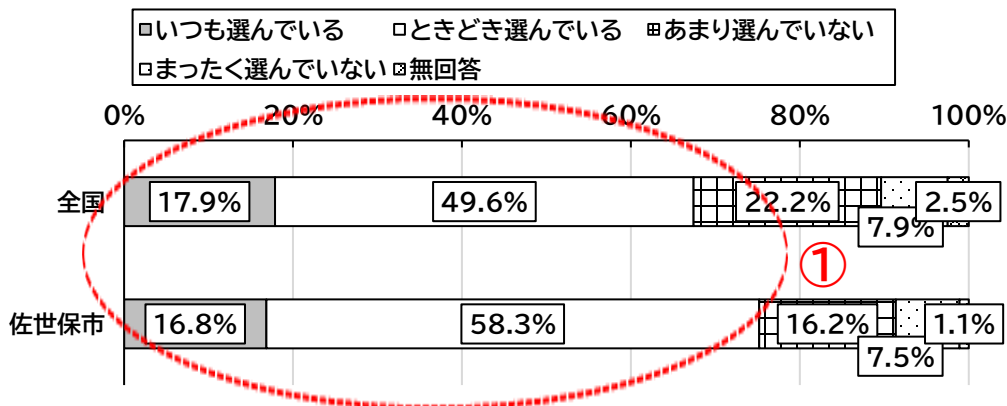


図 126 (成人) 地場産物の選択 全国との比較 (P118)

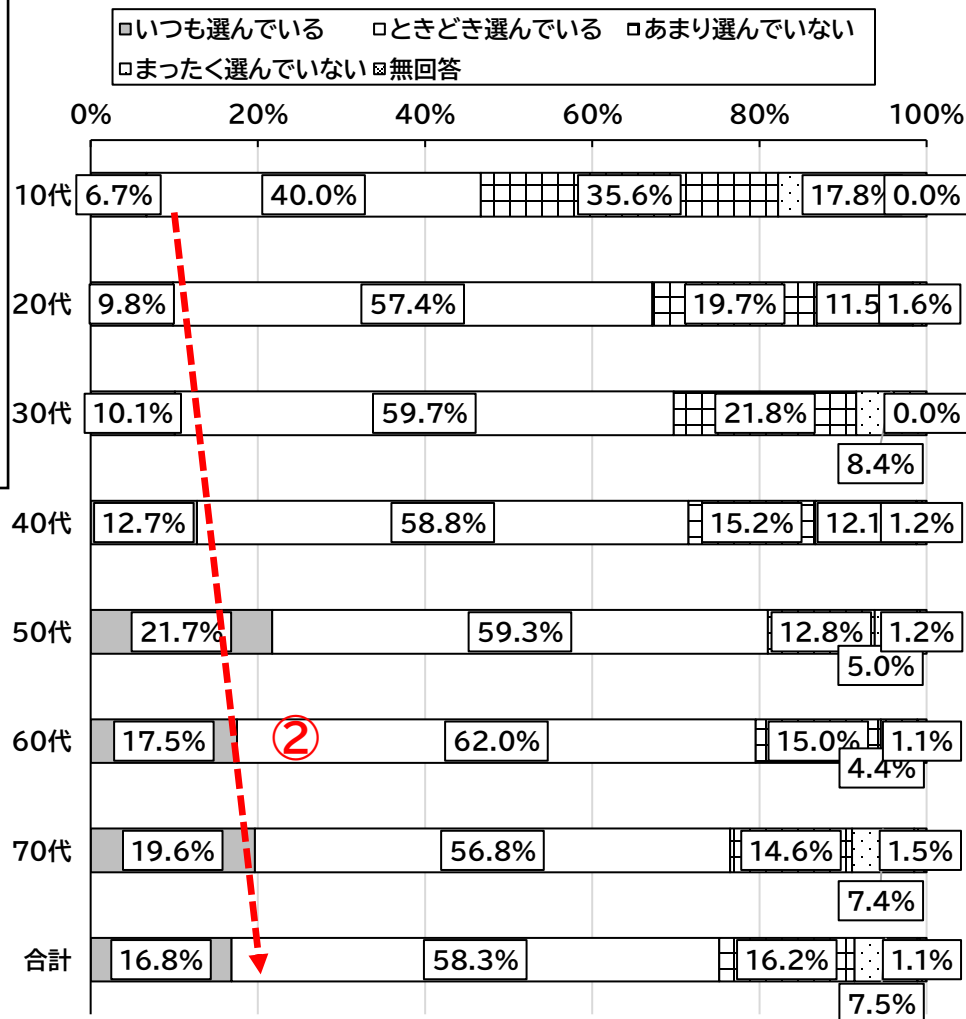


図 125 (成人) 地場産物の選択 年代 (P117)

【基本目標10】 食文化(伝統的な料理や作法など)を継承し伝えている市民を増やす

【現状】

お箸の持ち方は、すべての学年で正しく持っている割合が増加し、中学2年生以外は目標値を達成できた(P121-122 図129-130参照)。

郷土料理に関心を持つ人は、前回よりも割合が高くなっているが、目標値を達成できていない(P125 図132参照)。また、食文化を受け継いでいる割合は、全国に比べて低い(①)。

食文化を受け継ぐために必要なこととしては、全国と比べて「親等から家庭で教わる」割合は低く、「地域やイベント・メディアで教わる」割合は高い(②③)。

【課題】

食文化に関する効果的な情報発信及び地域でのイベントでの体験の機会をライフコースアプローチにより充実させることが必要と考えられる。

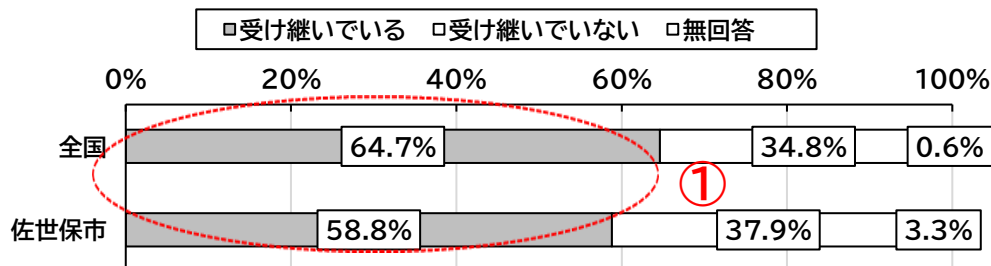


図 139 (成人) 食文化を受け継いでいるか 全国との比較 (P129)

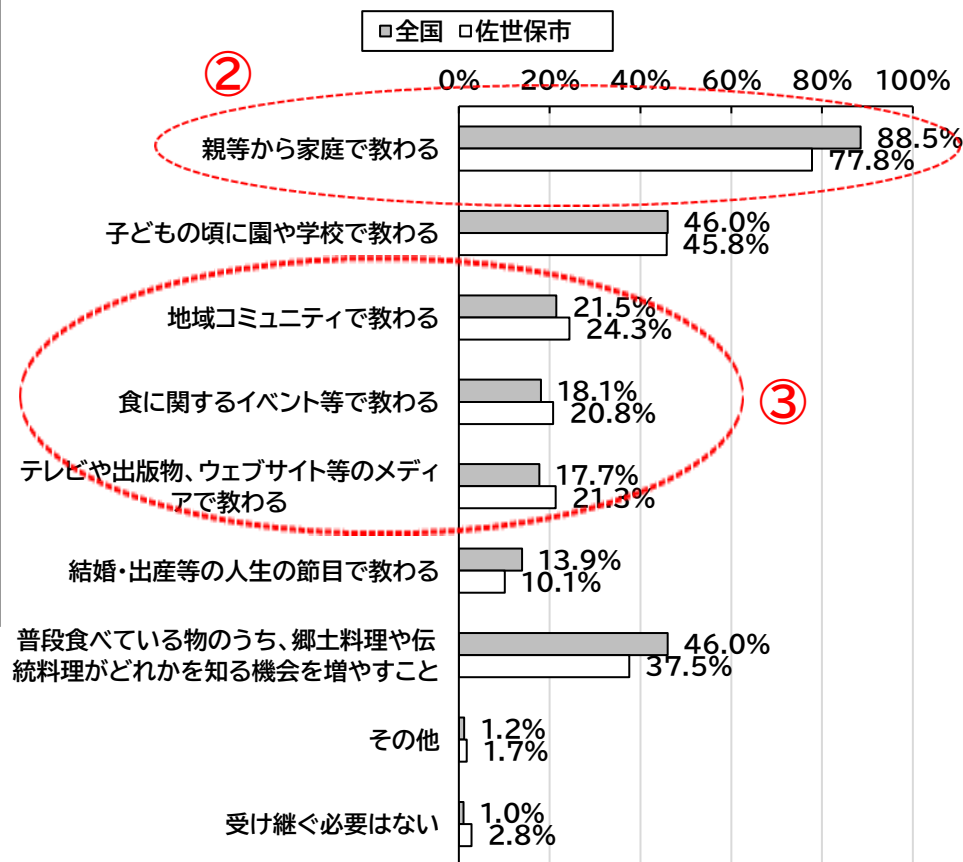


図 148 (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと 全国との比較 (P134)

【基本目標11】 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす

【現状】

食品ロス削減のために行動をしている人は、前回よりも増加し全国に比べて割合が高いが、目標値を達成できていない(①)。

具体的な取り組み内容としては、「残さずに食べる」「料理を作り過ぎない」「賞味期限を過ぎてみすぐ捨ててではなく、自分で食べられるか判断する」の順に割合が高く、全国に比べても高い(②③)。

【課題】

今後、冷凍保存の活用や商品購入時の手前どり、ドギーバックの活用(④⑤)などについて食品関連事業者等と連携した情報発信が必要と考えられる。

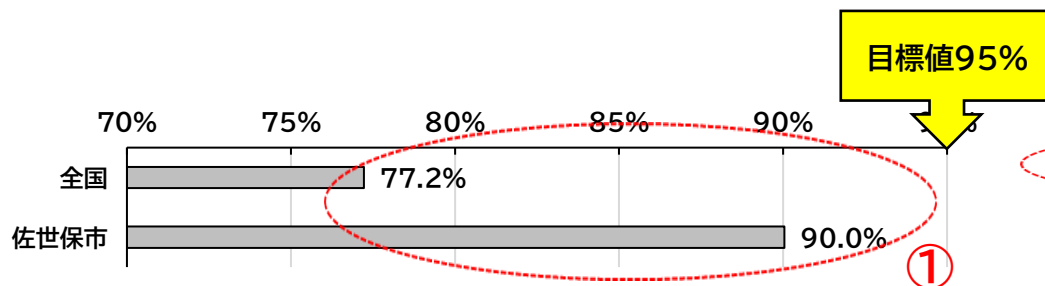


図 156 (成人) 何らかの行動をしている人 全国との比較 (P142)

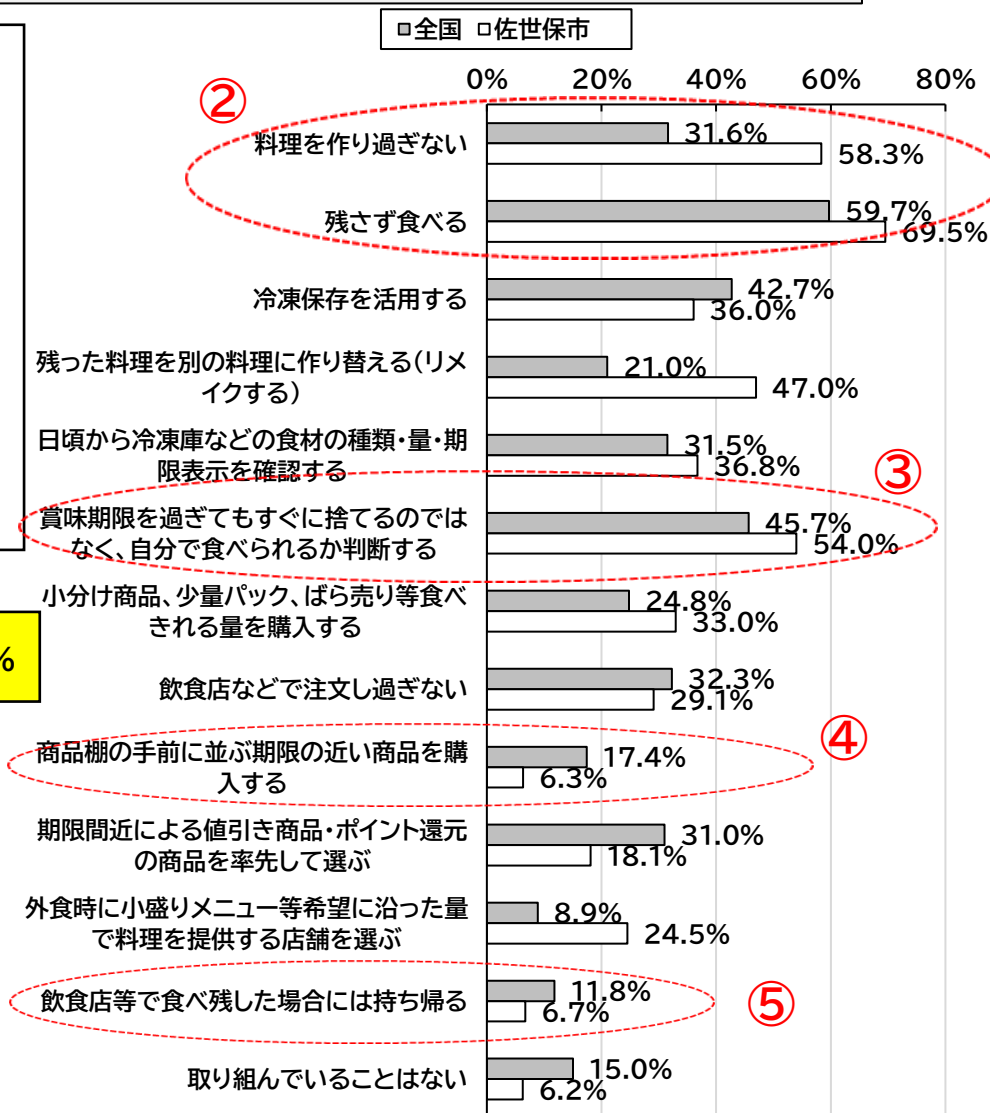


図 153 (成人) 食品ロスの取り組み 全国との比較 (P139)

【基本目標12】 食品の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす

【現状】

食事前の正しい手洗いを実践する割合は、目標値を達成できていないが、成人では前回よりも割合は高く、大人から子どもへの充実した取り組みが必要と考えられる(①)。

食品の安全性に対する判断は、全国に比べて割合は高いが、具体的な非常食の用意では地域性もあり、全国と比べて割合が低い(②③)。

【課題】

今後、正しい食品の安全性に関する判断に関する情報発信について、ライフコースアプローチ及び食品関連事業者等と連携した効果的な食育の推進が必要と考えられる。

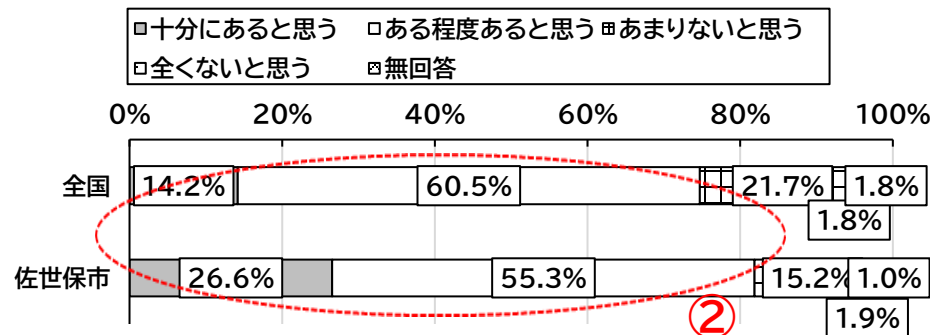


図 168 (成人) 食品の安全性に対する判断 全国との比較 (P150)

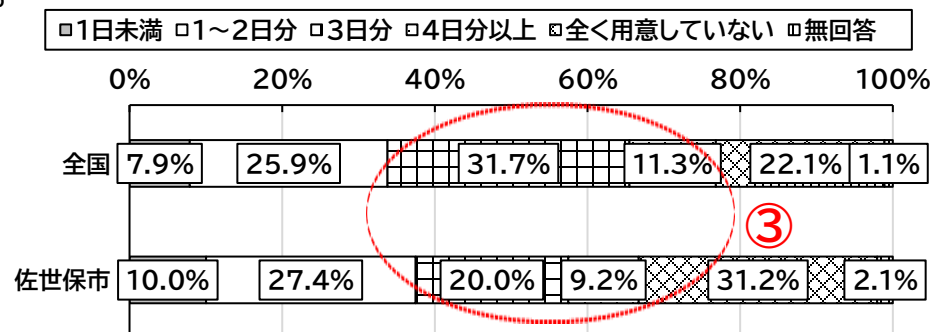


図 172 (成人) 非常食の用意 全国との比較 (P152)

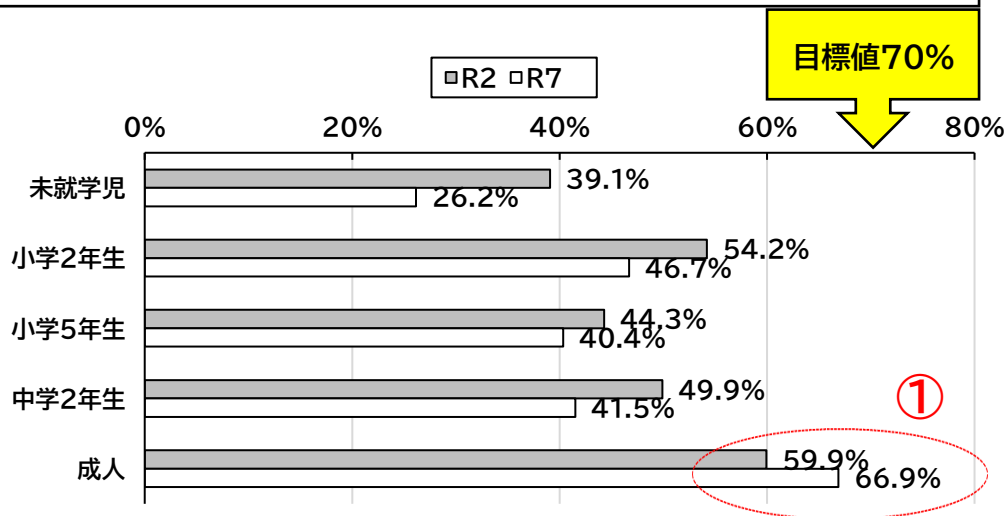


図 159 (小児・成人) 自ら判断する市民の割合 前回調査結果との比較 (P145)

次期食育推進計画骨子（案）

第4次佐世保市食育推進計画と第5次佐世保市食育推進計画(案)の構成比較

【現行計画】第4次

- ・ 第1章 計画の策定にあたって
 - 1-1 計画策定の背景と趣旨
 - 1-2 計画の位置づけ
 - 1-3 計画の期間
 - 1-4 計画策定の体制
 - 1-5 これまでの取組の評価と課題
- ・ 第2章 計画の目標と体系
 - 2-1 基本理念
 - 2-2 基本方針
 - 2-3 重点課題
 - 2-4 基本目標
- ・ 第3章 施策の展開
 - 3-1 基本的施策
 - 3-2 基本的施策の体系別、主な推進内容
 - 3-3 基本的施策毎の主な取り組み
- ・ 第4章 推進体制と進行管理
 - 4-1 計画の推進体制
 - 4-2 食育推進にあたっての役割
 - 4-3 計画の進捗管理と評価
 - 4-4 食育推進実施プラン

変更：第2章へ

変更：基本的施策
の内容を集約

変更：別冊で対応

【次期計画】第5次

- ・ 第1章 計画の策定にあたって
 - 1-1 計画策定の趣旨
 - 1-2 計画の位置づけ
 - 1-3 計画の期間
- ・ 第2章 佐世保市の食育の現状と課題
 - 2-1 第4次計画の主な取組
 - 2-2 佐世保市のアンケート結果による現状と課題
 - 2-3 今後の方向性
- ・ 第3章 食育推進の基本的な考え方
 - 3-1 基本理念
 - 3-2 基本方針
 - 3-3 重点課題
 - 3-4 基本目標
 - 3-5 計画の体系
- ・ 第4章 基本的施策
 - 4-1 基本的施策の展開
- ・ 第5章 計画の推進
 - 5-1 計画の推進体制
 - 5-2 国・県・各種計画との連携
 - 5-3 事業の評価と進捗管理

追加

佐世保市食育推進計画の位置づけ

(国)

食育基本法
(平成17年7月施行)

●第5次食育推進基本計画

(長崎県)

●第5次長崎県食育推進計画 (いただきます 元気 ながさき おいしか県)

長崎県総合計画みんなの未来図2030における個別計画

【食育基本法第17条第1項】

(佐世保市)

●第5次佐世保市食育推進計画 (させば しあわせ 食プラン)

【食育基本法第18条第1項】

●第7次佐世保市総合計画

くらし（市民生活）

・保健

[K P I] 健康寿命の延伸

●けんこうシップさせば21

- ・ 栄養・食生活
- ・ 身体活動・運動
- ・ 飲酒
- ・ 喫煙
- ・ 歯・口腔の健康づくり

●歯・口腔の健康づくり推進計画

【佐世保市歯・口腔の健康づくり推進条例】

<その他関連する主な計画>

- ・ 老人福祉計画・介護保険事業計画
- ・ 保健事業実施計画（データヘルス計画）
- ・ スポーツ推進計画

佐世保市食育推進計画の期間

- ・ 次々期計画を第3次けんこうシップさせぼ21及び第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画の次期計画期間と一致させ、調和を図りながら推進する。
- ・ 栄養・食生活支援における食育及び健康増進への効果を短期間で測ることは難しく、一定の評価期間を要するため令和17年を終期とする。
- ・ 具体的目標については、計画開始後の概ね7年間を目途として設定し、計画開始後8年を目途に分析評価を行う。

	年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	
分野	国	第4次食育推進基本計画			第5次食育推進基本計画					第6次食育推進基本計画					...
	県	第4次長崎県食育推進計画			第5次長崎県食育推進計画					第6次長崎県食育推進計画					...
	食育	第4次佐世保市食育推進計画			第5次佐世保市食育推進計画										次々期
	健康	第3次けんこうシップさせぼ21(12年間)													次々期
	歯科	佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画(12年間)													
														</	

第5次佐世保市食育推進計画の策定に向けた考え方

これまでの成果（目標達成項目から）		課 題（目標未達成項目から）	
・家庭での伝統的な作法(正しい箸の持ち方)の継承 ・地産地消に対する認知 ・栄養成分表示を確認する機会		・朝食の欠食 ・栄養バランスに配慮した食生活 ・食の安全性に対する判断	
<div>認知 増加傾向 ←……………</div> <div>適切な食選択による望ましい食生活</div> <div>……………→ 実践 減少傾向</div>			
考えられる背景		考えられる食育推進への影響	
・少子高齢化に伴う独居世帯の増加 ・共働きや単身世帯の増加 ・生活環境や働き方の多様化		・身近にある外食や中食の利用 ・食の簡便化 ・経済的志向の高まり ・望ましい食生活への影響 （若い世代の野菜不足・高齢者のたんぱく質不足） ・孤食の増加に伴う食文化継承の機会の減少	
食育を推進するための重点的な取組内容【キーワード:し・あ・わ・せ】			
し	あ	わ	せ
しぜんに健康になれる しよく環境整備	食物や情報へのアクセス ライフコースアプローチによる食育の推進	みつつのわ食による 食育の推進 【輪・環・和】	せいかつ習慣病予防につながる食文化の継承

第5次佐世保市食育推進計画の重点的な取り組み

	内 容	具体的な取り組み
し	自然に健康になれる食環境整備	<p>○スマート・ライフ・プロジェクトの推進 ○健康経営の推進</p> <p>食品関連事業者等との連携</p> <p>●健康に配慮したメニューの提供(外食・中食) ⇒ 食物へのアクセス ● // 栄養・食生活に関する情報発信 ⇒ 情報へのアクセス</p>
あ	食物や情報のアクセス ライフコースアプローチによる食育の推進	<p>○ライフコース・アプローチによる食をとおした健康づくり</p> <p>肥満及びやせの改善 ◎高齢者のフレイル及び低栄養予防</p>
わ	みつつの「わ」食による食育の推進	<p>○○●輪(共)食 ⇒ 次世代への食の安全性及び食文化並びに食習慣の継承 ●環食 ⇒ 食品ロス削減の推進 ○和食 ⇒ 主食・主菜・副菜をそろえた食習慣</p>
せ	生活習慣病等の予防につながる食文化の継承	<p>●生活習慣病及びフレイル予防等につながる食育の推進</p>
<p>【 関係する計画の取組 】 ●佐世保市食育推進計画 ○けんこうシッパさせぼ21推進計画 ◎歯・口腔の健康づくり推進計画</p>		

第4次食育推進計画実績値・評価及び
次期食育推進計画目標値（案）
